

| 木津川上流部会意見交換会(2005. 9. 12 開催) 結果報告 | | 2005. 10. 17 庶務発信 |
|---|------------------------------|-------------------|
| 開催日時： | 2005年9月12日(月) 14:00~17:23 | |
| 場 所： | 大阪商工会議所 地下1階 1号会議室 | |
| 参加者数： | 委員14名、河川管理者(指定席)15名 一般傍聴者92名 | |
| <p>1. 決定事項：特になし</p> <p>2. 報告の概要 庶務より報告資料1を用いて、第2回木津川上流部会の結果報告がなされた。</p> <p>3. 審議の概要</p> <p>○川上ダムの調査検討結果について 河川管理者より、審議資料1を用いて、川上ダム建設に伴う自然環境への影響についての補足説明がなされた後、委員と河川管理者の意見交換がなされた。主な意見交換は以下の通り(例示)。</p> <p>①川上ダム建設に伴う自然環境への影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オオサンショウウオに関する質問について、説明がなされていない。ダムにより分断された個体群が絶滅せずに安定的に維持・増殖できるかがポイントだ。また、移動させた個体群がどう定着して、その個体群を含めて何個体が維持されるのかを明確にしないといけない。 ←前深瀬川、川上川上流での繁殖活動への影響では、水没予定区域とそれ以外に分けて生態を調べており、個別に説明させていただきたい(河川管理者)。 ・大洪水の濁流により流される確率が高くなる。ダム湖に流されたオオサンショウウオの生態はわかっていない。慎重に調査する必要がある。 ・オオタカに関する今回のデータでは、同じ個体でも行動圏が変わり、営巣場所も変わっており納得した。営巣場所と取り付け道路の距離が非常に近いが、距離について検討されたのか。 ←営巣中心域は改変しないのが基本。道路は少しでも遠ざけようと計画した(河川管理者)。 <p>②水質について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質予測モデルの整合性について解析した。平均値だけを比べると合っているように見えるが、分布図をとってみるとあまり合っていない。濁度、SS、クロロフィル、COD、N、Pはデータがばらついており、精度が悪い。さらに、回帰直線の傾きをみると、再現できているという結論はとれない。 ・予測数値については、普通の物理量のような扱いをしない方がよい。余り予測結果から物事を動かそうとすると、とんでもない過ちを犯すかもしれない。淡水赤潮やアオコが減ったのは、何平方メートルあたりなのか。種類についても教えていただきたい。 ←淡水赤潮はペリディニウム、アオコはミクロキスティスが主である。淡水赤潮は、緑がかかるが、目視ではそういうように発生していない(河川管理者)。 <p>③対象洪水の考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にはダムを前提にした既往最大洪水1.1倍を約束しているためどうにもならないという河川管理者の説明を聞いてきた。今後も同じ考え方で審議を進めるのか。 ←既往実績降雨の中の最大雨量を対象にするが、様々な雨量分布がある。雨量は既往の実績降雨の最大雨量に合わせるが、雨量分布はいろいろなものを考えるという考え方だ。結果としては1.1倍や1.2倍になっている(河川管理者)。 <p>④岩倉峡の疎通能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流量と水位の観測値を用いて外挿で求める方法、水理学的に推定する方法の2つの方法があるが、河川管理者の説明には、全く納得していない。実測値を推定する場合、最近の実測値データを用いているが、その洪水の最大流量が2000m³/sに達しておらず、非常に流量の少ないところのデータから4000m³/s近くのデータを外挿によって求めていることになる。どのような水位と流量の関数形を用いたらよいかかわからないため、実測の断面形の測定結果から水位と断面積、径深の3分の2乗をかけたものの関係を求めている。一方、実測の流量と今のARの3分の2乗との関係を求め、そこに直線関係を当てはめているが、これも問題がある。どのような方法を用いようと流量の小さなところから求めるのは非常に困難であるた | | |

めに不等流計算を行っているが、支配断面ですべて限界水深として計算している。このため、計算結果には数十 cm の誤差を含んでいる可能性がある。多ければ 50cm 程度の誤差になるかもしれない。納得できる計算をしていただきたい。

←岩倉峡の流下能力については、どの方法がベストなのか、なかなか言えない状況にあると思う。しっかり検討させていただきたい（河川管理者）。

⑤三重県の利水について

・環境と考えれば、水を貯めない方がよい。川上ダムではなく、比奈知ダムや青蓮寺ダムを活用できないのか。比奈知ダムでは、河川管理者に一旦利水権を返して、必要なところに再度渡すというやりくりができないのか。

←代替利水については、木津川の取水地点上流には貯留施設がないため、安定して水を取ることはできない。名張川のダムからの転用については、転用できる余裕はないと考えている。農業用水以外の上水については、小規模なものが多く、余裕がない。また、淀川三川合流から下流の大阪市の水利権は、単独でみれば余裕があるが、トータルで見ると、ほぼバランスしていると考えている。（河川管理者）

4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者 8 名からの発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

・岩倉峡入り口部のHQ曲線は、昨年秋から岩倉地点の横断図を入れた図に変えてきた。1年前から岩倉峡疎通量は 2940m³/s となると言い続けてきたのは木津川上流河川事務所だ。一昨年から2年間にわたり、住民説明会や住民対話集会で 5313 洪水の実績降雨の流出量を前提に 592m³/s に対応する河川整備計画が必要と説明してきたのは木津川上流河川事務所だが、昨年 9 月から既往最大降雨量 319mm への引き延ばしにより、計画対象洪水をほかに検討する方向に豹変したのも木津川上流河川事務所だ。利水については、現伊賀市に対し、水需要の抑制の要望や詳細な詰めをしていない。農業用水の実利用が相当減少しているのが実態であり、その洗い直しと実情の農業利用水量の把握ができていない。環境調査については全く不十分だ。どのような保全対策ができるのか。

・高山ダムに設置している浅層曝気設備の費用対効果を聞きたい。

・以前、委員から川上ダムオオサンショウウオ調査検討委員会の議事録を見せてほしいとの要望が出されていたが、河川管理者は流域委員会に議事録を提出したのか。

・生態調査を主導されている学識経験者は、生態調査のことがわかっていない。オオサンショウウオの子供がどのような状態になっているのか。オオタカの普段の状態がどうなのか。全く触れられていない。高山ダムの曝気装置はいくらするのか。プランクトンは川の水が動いていれば発生しない。川上ダムは、流れダムなのかとまりダムなのか。建設計画の段階で予測しておかないといけない。

・青蓮寺ダムに対して大阪市が約 1m³/s の水利権を持っているが、大阪市は水を余らせており、このうち 0.304m³/s を利用して地元にある農業施設を利用すればよい。淀川下流部で水資源開発量がどのくらいあるのかを考えて頂きたい。人口減少を考えあわせればわずか 0.3m³/s の話ではないか。また、比奈知ダムに京都府が持っている 0.6m³/s のうち 0.3m³/s を利用する方法もあるのではないか。三重県に譲る余裕はないというのが河川管理者の説明だが、木津浄水場は比奈知ダムの 0.6m³/s のうち 0.3m³/s をとればやっていける施設になっている。

・過大な事業を実施するのに、各自治体に対して物が言えず、自治体に任せておくとは、河川管理者は何を考えているのか。

・川上ダムが有効で必要なダムであれば、実施方針の指示に基づいて、原点に戻って議論すべきではないか。

・一庫ダムの深層曝気設備は、30 年はもたない。三重県が負担していくのかどうか疑問に感じている。また、今回資料では、代替案と代替案プラスダムの比較になっており、川上ダムの効果を比較できない。岩倉峡の部分開削についても検討していただきたい。

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。